

外科 マンスリーレター 2017.11



日頃よりお世話になりありがとうございます。市立大津市民病院外科の平井健次郎と申します。

今月は、直腸癌に対する術前化学放射線療法（NACRT）について、患者さんの目線で考えてみたいと思います。

進行直腸癌に対するNACRTは近年本邦でも導入する施設が増え、ようやく世界の標準治療に追いついてきたという現状です。当院でも少しずつではありますがNACRTに取り組んでおり、その中には先生方からご紹介いただいた症例もあります。

先日、大津で行われた研究会でNACRTの症例をご紹介いただいた先生より貴重なご指摘をいただきました。“NACRTの効果は理解できますが、5週間という治療期間、さらに手術までの待機期間、患者さんの中には不安でいっぱいの方がいます。”というものでした。直腸癌と診断されてから手術まで何週間も過ごすのは、患者さんやそのご家族にとってはとても長い時間を感じられることでしょう。“全身麻酔”“手術”と聞くだけでも怖いうえに“放射線”や“抗がん剤”と、たくさんの治療を受けるのですから、通院や副作用など身体的な負担に加え、不安はたいへん大きなものとなります。

そこで今回は細かいエビデンスは割愛して、患者さんが少しでも前向きに治療に取り組んでいただけるような説明のポイントを挙げてみたいと思います。

ポイント1 永久人工肛門を回避できる可能性が高くなります。“袋をつける（人工肛門）のは絶対に避けたい！”とおっしゃる患者さんはとても多いです。

ポイント2 術後局所再発を抑制することができます。患者さんはイメージがわきにくいのですが、局所再発すると根治できないことも多く、切除できるとしても侵襲が大きな手術となることが多いです。

ポイント3 抗がん剤は放射線の増感剤として併用しますので、使用する抗がん剤は通常の3分の2の用量です。そのため副作用はそれほど重大ではありませんが、つらい場合は減量や休薬します。これまですべての患者さんで5週間の治療を中止せずに受けていただいています。

一方で、永久人工肛門を回避できる場合でも、一時的（手術後 約3ヶ月間）に小腸人工肛門が必要であったり、肛門括約筋に対する照射の影響が懸念されたりします。負の面も含め当院では十分なインフォームド・コンセントを行い、できる限り安全に、安心してNACRTを受けていただけるよう工夫しておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

NACRTから手術までのスケジュール

照射 45Gy (1.8Gy/day)



Capecitabine 1650mg/m²/日

[5日間照射・内服 2日間休み] × 5回

5週間

手術

6~8週間

この間に、
治療効果判定の
検査を予定します。

放射線照射日

- ・照射時間は、数十秒×4回です。
- ・来院・照射時刻は、患者さんのご都合に合わせて決定します。

